

# 平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

## Aあきたふるさと講座

### A1～6：概観・秋田の歴史

会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

【趣旨】原始から近世までの秋田の歴史について、それぞれの時代を専門とする大学の先生や地元史家が概観します。シリーズ全体を学習することで、秋田の歴史を通史として学ぶことができます。

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
A1	5月14日 (土)	考古学上の秋田	秋田県文化財保護審議会 会長 富 樫 泰 時 氏	71
A2	6月4日 (土)	古代の秋田 ～女帝の時代の秋田～	秋田大学教育文化学部 教授 渡 部 育 子 氏	95
A3	6月11日 (土)	中世の秋田	羽後町立羽後中学校 教諭 佐 藤 一 幸 氏	90
A4	7月2日 (土)	秋田藩政の確立 ～秋田藩前期～	元秋田県立図書館長 半 田 和 彦 氏	91
A5	7月9日 (土)	秋田藩政の展開 ～秋田藩後期・天保期の状況～	元秋田県埋蔵文化財センター所長 高 橋 務 氏	101
A6	7月23日 (土)	秋田の幕末・明治維新	秋田県立博物館 学芸主事 畑 中 康 博 氏	128
合計				576名

ここでは、4回目の講座について報告します。

佐竹入部(1602年)後の秋田藩政前期の動きを現代の世界の動きに例えた講義は、受講生に分かりやすいものでした。始めは秋田を治めるために行った領地確定の話です。秋田側と南部側の動きと主張を比べながら、幕府が双方の言い分を聞いた上で命令を下していたことをお話しくださいました。続く津軽や最上、亀田との領地論争も秋田市史等の歴史史料を提示していただき、領地の境がどのように決められたのかをユーモアたっぷりにお話しいただき、学びが深まりました。手書きの資料は受講生に好評でした。藩政前期では、権力の掌握のため、有力な家臣を領内要地へ派遣したことや家臣団へどのように知行を与えたかという地方知行制のことを詳しく説明してくださいました。特に、知行の複雑な計算をしていた当時の役人の能力の高さに驚かされます。他に、貢租制度の確立や地域の安定のため、旧領主時代の有力者を直臣又は陪臣として採用したこと、土着した旧地侍の人々を村の肝煎として行政組織の末端に組み入れたこと、財政の柱として「米・杉・山(鉾山)」を意識した政治を行ったことなど、公文書館所蔵史料に基づいた90分間の講義は、あっという間に過ぎ去りました。

